

運搬会社に委託する場合

2016年1月6日

検査依頼を結核研究所に Mail、電話などで行う
※臨床検体を送る前に必ず結核研究所に連絡する。

運搬用の容器は自施設の容器を使うか、
結核研究所に国連規格容器を依頼する

国連番号 UN3373 を運搬するにあたって検定に合格した容器の
3次容器までラベリング(UN3373)・マーキング・必要な記入事
項全て完成させる。(結核研究所の場合、国連規格容器を使用)

感染性物質の運搬のできる業者に依頼する

例 航空貨物など

多くの宅配業者は現在までのところ感染性物質の運搬を
行っていないが、できるところもあり、確認する。



臨床検体（カテゴリーB）は

・近鉄ロジスティクス・システムズ

03-5755-6074

・日本通運（日通航空：03-5445-3690）

または、病院・保健所などの車も可能

詳しくは以下を参照

特定病原体等以外の感染性物質の運搬（カテゴリーB）を

運搬会社に委託

2016年1月6日

以下は結核研究所の例であり、容器への表示などは荷送人の責任で行う

運搬の梱包に関わるリスク管理責任は
荷送人（荷主）または検査を依頼した施設にある



① 事前に結核研究所  に電話 042-493-5773 する

② 輸送用容器を準備する：結核研究所に依頼するか、荷送人施設で用意する。

③ 結核研究所に依頼する場合、連絡用紙に必要事項を記入の上 FAX、又は mail すると輸送用セット（国連規格容器など）が着払いで送られてくる。

事前に運搬会社と電話で打ち合わせ、荷の引き取り日時を決める。
ドア to ドアが基本

④ 安全キャビネット内にて被検株の培地全体からコロニーを満遍なくかきとり、輸送用培地面に塗り広げず、菌塊が見えるように接種し、培養せずに送る。培養が必要なときは結核研究所において行う。

※安全な運搬のため、必要以上の菌量を送らない。

⑤ 輸送用培地（1次容器）が破損したときに内容物を十分吸収できる吸収材に包み、ビニール袋に入れ、クッションとなるもので保護し、2次容器(プラスチック容器)内に固定する。



固形培地は吸収材で包む



液体培地はそれをさらにペーパータオルで包む

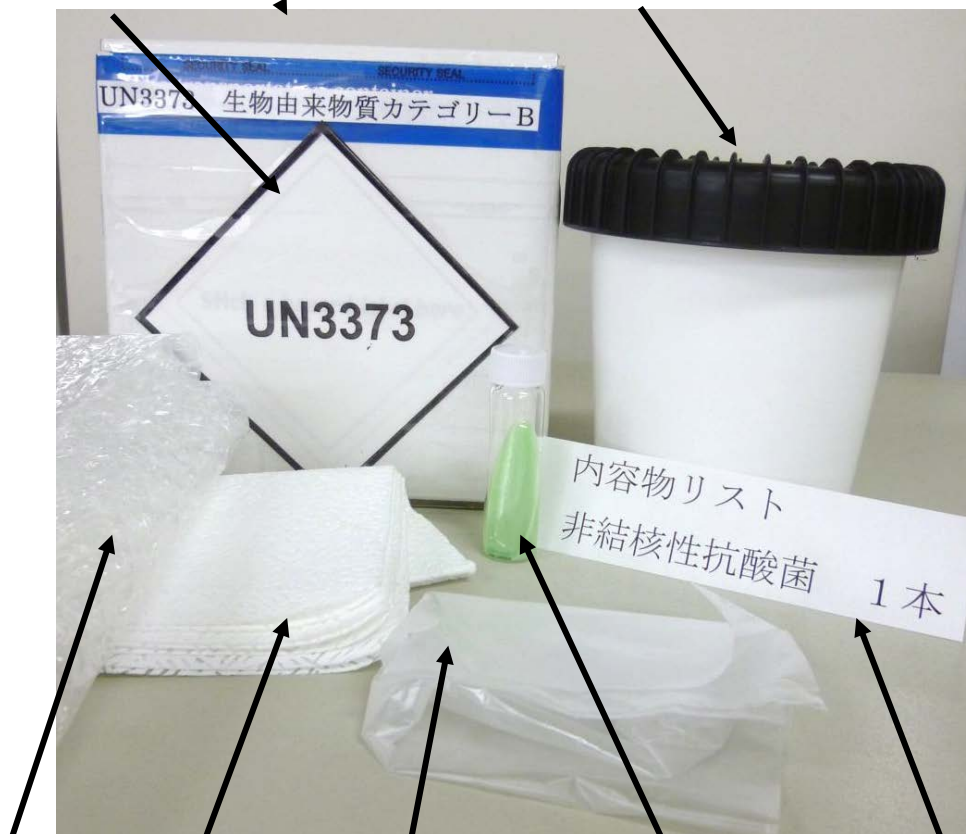


結核研究所から送られてくる輸送用セットの例

※内容物は科によって異なることがある

3次容器（ダンボール製紙箱）

2次容器（プラスチック製）



クッション

吸収材

1次容器用ビニール袋

1次容器

内容物リスト
(荷送人準備)

※ 2次容器と内容物リスト（又は検査依頼書）を3次容器（紙箱）の内側に入れる。

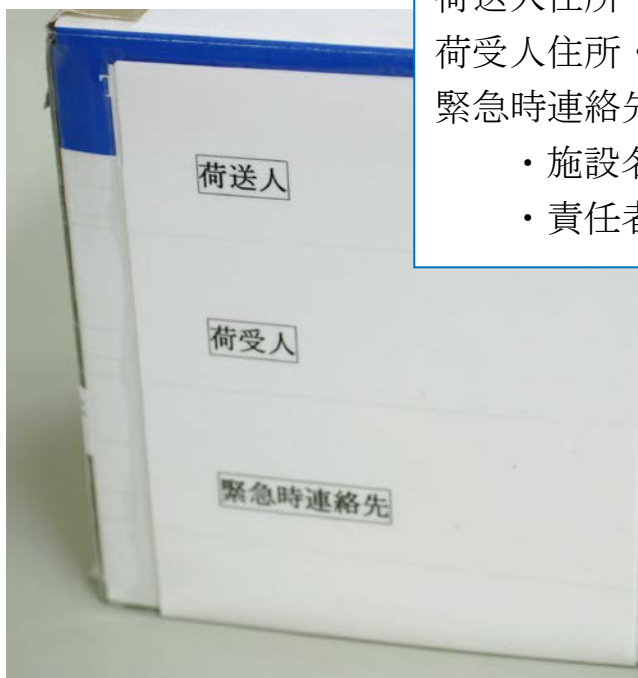
⑥ カテゴリーBの場合 国連規格容器 3次容器の外側を完成させる



外装容器表面にUN3373のマークを貼り、
UN3373 生物由来物質カテゴリーB
相対する2側面に天地無用ラベルを貼る

国連シンボルマーク  4G××××
は消す

箱の裏側



荷送人住所・施設名・氏名
荷受人住所・施設名・氏名
緊急時連絡先：
・施設名
・責任者氏名（電話番号）



ビニール袋可

緊急時連絡先の責任者は緊急時連絡網（紛失または事故による水漏れ等は110番通報など）を知り、消毒などの知識を有し、荷送人・荷受人・検査依頼者が事前に話し合っている

近鉄ロジスティクスの場合

※荷送人は送り状作成の必要なし

※一部の離島を除き、全国にカテゴリーBの集配送（航空輸送を含む）が可能である。

① 荷送人が近鉄ロジスティックの検体輸送チーム 03-5755-6074 に電話し、集荷時間を打合わせる

② 近鉄ロジスティックから mail か Fax で集荷依頼書が届く

③ 集荷依頼書に住所・施設名・電話番号・氏名を書いて mail か Fax する

内容物を国連規格容器に入れて集荷を待つ ドア to ドア

日通航空の送り状の例

※航空輸送が可能である。

03-5445-3690 に電話するとドア to ドアで荷を取りに来る

施設名・部署・氏名まで記入

土・日・祝日は配達できないと書く
(結核研究所が休みのため)

日通航空 エクスプレス ハイスピード

元払 27-248779-4095

お届け希望日 時間内サービス

品名: カテゴリーB 生物由来物質

日本通運株式会社
〒105-8322 東京都港区東新橋1-9-3
荷物お問合せ
<http://www.nittsu.co.jp/sora/>
フリーダイヤル 0120-972259